

巻 頭 言

Reload 熊本！

金 森 秀 一*



強い組織には一言で構成員にその意味するところが伝わる言葉がいくつか存在する。「Reload」、辞書では「再充填、再び弾丸を込める」など。しかしRUGBY経験者やファンなら思い当たる特別な言葉だ。2015年ラグビーワールドカップ(RWC)のJAPANの快挙はRUGBYファンならずとも記憶にあるだろう。過去の戦績が1勝21敗のJAPANが25勝4敗で二度の優勝を誇る南アフリカを破ったのだ。まさに世界を驚かせた。それを実現させたのがエディ・ジョーンズヘッドコーチ(HC)のマネジメントだった。JAPANは「スピード重視の攻撃ラグビーで世界に勝つ」というコンセプトのもと戦略戦術を構築。例えば体の大きい外国人に対するタックルはダブルタックル。一人が相手の足元にタックル、もう一人がボール獲得を狙って上半身にタックル。しかしラグビーは数の勝負だからこのような敵一人に味方が二人倒れる戦術は次の展開に不利になる。それを補うのが「Reload」だ。倒れてもすぐに立ち上がりさらにタックル、ボールを獲得していればスピードアタックという行動を表す言葉だ。試合中JAPANの「Reload」の声が何度も響く。そのためには相手とフィジカルで互角にフィットネスでは上回る基礎体力が必要だ。だからエディHCは厳しい合宿を課している。年間100日を超える合宿で朝5時からウェイトトレーニング、特にフォワードは「セットプレー」のスクラム強化のため頭にも背中にもウェイトをつけ腕立て、朝食後の練習はスクラムとランニング、午後は全員GPSをつけて試合形式のアタックディフェンス、上空にはドローンを飛ばしフォーメーションを俯瞰。夜はそれらのデジタルデータを基にミーティング、明日の練習に反映する。これをJAPANは2012年から3年半続けたのだ。勝利はエディHCのマネジメントの勝利だったと言える。マネジメントが不可能を可能にしたのだ。これは企業経営にも反映できる考え方だ。実際エディは2016年1月1日付でゴールドマン・サックス日本法人のアドバイザーリーボードに参画している。

弊社社員にはこのストーリーを映像付きで展開している。伝えたいのは「結果はマネジメントできる」だ。状況を分析し十分に備えれば結果はついてくる。そして2016年の年度方針のスローガンは「Reload」。「失敗してもくじけず立ち上がれ！」。営業で断られてもあきらめずReload、開発で失敗してもReload、品質でトラブルでも再発防止でReloadだ。

その2016年度が始まったばかりの4月に奴らは熊本にやってきた。巨大地震群だ。4月14日16日に震度7の激震が熊本を直撃。16日の地震は200回を超え、そのうち震度4以上が40回。熊本は壊滅的な被害を受けた。揺れるたびに崩れる熊本城の石垣の映像に熊本の人々は心をえぐられる思いを感じた。被災企業においてもBCPの備えをした企業とそうでない企業の差が歴然と出た。東日本の被災を教訓に数年かけてBCPを構築した半導体A社は36日で完全復旧、準備不足の半導体B社は完全復旧に4か月を要した。B社社長は事前にBCPについてA社に真剣に学ぶべきだったと反省し今回の被災状況及び再構築したBCPを冊子にまとめ、系列を問わず一般企業に公開している。「自然災害に対しては系列もライバルも関係ない。経営者が自社の問題ととらえBCPに本気になることが重要。」とB社の社長は語った。B社の社会貢献度は大きいと思う。

また実は弊社は地震真っ最中の4月15日に表面処理業界の見学を受け入れる予定だった。しかしとても受け入れできる状況ではなく「被災修復のため受け入れ不可、熊本には近づかないで」のメッセージを発信した。だが前乗り入れしていた数社の社長はすでに被災されていた。また弊社の発信が見学予定者を通じて全国に発散。全鍍連の青年部はLINEで情報共有。結果として全国からたくさんの支援物資をいただくことになった。この紙面を借りて改めて御礼申し上げたいと思う。今年はリベンジで2年前と同じプランで見学を受け入れる予定だ。しかし2年たった今でも仮設住宅で暮らす県民は約2万人、阿蘇の道路は不通の箇所が残され観光産業への影響は大きく、熊本城に至ってはすべての石垣が修復するのに20年掛かるという。復興はまさに緒に就いたばかりだ。比較的早く回復したものづくり産業が熊本県経済のけん引役として期待されている。微力ながら頑張るつもりである。

2019年RWCは日本開催だ。熊本でもフランスとウェールズの試合がそれぞれ行われる。応援に来られる世界中の人々に「熊本の復活」のアピールの象徴として熊本城の石垣はともかく天守閣だけは修復させる計画だ。

読者の皆様も是非引き続き熊本を応援していただきたいと願う次第です。

* (株)オジックテクノロジーズ 代表取締役社長 本会 副会長